

4月の診療変更のお知らせ

眼科	泌尿器科	皮膚科	外科	内科
<p>〈担当医の交替〉</p> <p>毎週火曜日</p> <p>榊田 悠喜 医師</p> <p>↓</p> <p>泉 尚志 医師</p> <p>(岡山大学病院)</p>	<p>〈担当医の交替〉</p> <p>毎週土曜日</p> <p>西村 慎吾 医師</p> <p>↓</p> <p>川合 裕也 医師</p> <p>(岡山大学病院)</p>	<p>〈担当医の交替〉</p> <p>毎週火曜日</p> <p>横山 恵美 医師</p> <p>↓</p> <p>安富 陽平 医師</p> <p>(岡山大学病院)</p> <p>毎週金曜日</p> <p>佐藤 由規 医師</p> <p>↓</p> <p>竹崎 大輝 医師</p> <p>(岡山大学病院)</p>	<p>〈新任〉</p> <p>毎週木曜日(午後のみ)</p> <p>高田 為行 医師(非常勤)</p> <p>↓</p> <p>野崎 麻友 医師</p> <p>(常勤)</p>	<p>〈担当医の交替〉</p> <p>毎週木曜日</p> <p>切土 博仁 医師</p> <p>↓</p> <p>中西 秀和 医師</p> <p>(川崎総合医療センター)</p>



DMAT



災害支援ナース

整された日程で、県内12の災害拠点病院から1チームずつ切れ目なく派遣されました。石川県能登町役場内に設置された保健医療福祉調整本部に入り、さまざまな職種のチームが集まる本部の運営を担当しました。先発隊の岡山医療センターチームの業務を引き継ぎ、本部の連絡係、記録係、役場内にリエゾンとしての出向など、4日間泊まり込みで支援を行いました。

災害支援ナースは、岡山県看護協会が調整された日程で、金沢市のいしかわ総合スポーツセンターに設置された1次避難所で、約180名の避難者の健康管理や診療補助などの活動を行いました。



DMAT

能登半島地震において、当院より災害派遣医療チームDMAT(医師1名、看護師2名、業務調整員2名)が1月22日(月)～27日(土)の6日間(実活動4日間)、災害支援ナースとして看護師1名が2月1日(木)～2月6日(火)の6日間(実活動4日間)、現地で支援活動を行いました。

TOPICS 1

能登半島地震の支援活動を行いました



1月28日(日)マルイアルティ店にて、真庭看護就職フェアが開催されました。看護協会真庭支部と真庭市医師会が協力し、看護職を目指す学生に地元で働いてもらうこと、看護職を離れていった方の復職を支援すること、子ども達にも看護の魅力を知ってもらうことを目的として、約4年ぶりに開催されました。市内の病院や介護施設、訪問看護ステーション、真庭高校看護科など多くのブースが設置され、来場された学生や再就職を考えている方などに、ポスターや動画を使って当院の魅力アピールしました。

TOPICS 2

看護就職フェアに参加しました

岡山県地域卒業医師

いまむら りょうた

今村竜太先生のご紹介



プロフィール

平成7年3月29日生まれ、愛媛県四国中央市出身。既婚(2児のパパ)。趣味/釣り
落合病院 内科(常勤)、岡山市立市民病院 膠原病リウマチ内科(非常勤)

ちいきわく 地域枠とは

岡山県では岡山大学医学部医学科地域枠に入学した学生に奨学金を貸与し、将来県内の医師不足地域等で医療を支える医師を養成しています。地域枠卒業後は、医師免許取得後に一定期間、県が指定する医療機関に勤務が求められます。

今村先生は、地域枠を卒業後、岡山市民病院等での研修を経て、2022年4月より落合病院 内科で勤務されています。2024年度も引き続き当院で勤務していただくこととなり、今回インタビュー形式で先生のご紹介をさせていただきます。

いろいろな質問にお答えします!

地域枠から医師の道を志したきっかけや動機は、何でしょうか?

奨学金をいただきながら学業ができる非常にありがたい制度ですが、内科医として個別の臓器でなく全身・人を診て、その地域の患者さんの『生きる』をサポートしたいという思いもあり、一般入試で合格した後から個別に県へ志願しました。

落合病院で学べることや良かったことはありますか?

前任の藤井先生や脇地先生から非常に働きやすい環境と前評判をうかがっていたことや、院長先生方のお人柄から当院を選択しました。

落合病院を選ばれた理由は、何でしょうか?

2人目の子どもができたこともあり現在は県南から通勤をしていますが、勤務1年目は市内に住んでおり、家族でよく真庭あぐりガーデン、ジェラート醍醐、真庭市立中央図書館などに行っていました。

真庭市の思い出の場所などはありますか?

真庭地域に根差した、なくてはならない病院だと改めて感じます。病院のスタッフも親切で相談しやすい、働きやすいアットホームな雰囲気もあり、もう1年この地域の患者さんのために頑張りたいと思います。

今後、先生はどのような道に進まれるのですか?

専攻している膠原病リウマチ内科の道で臨床や研究で研修を積んでいきます。膠原病リウマチ内科では、関節リウマチや全身性エリテマトーデスなどの結合組織病の患者さんに対象とします。同じ病名でも患者さんによって重症度や症状が出てくる臓器に違いがあり、治療の内容も異なりますので、非常に興味深い診療科です。当地域では外部から専門医の先生が来られたり、県南等へ遠方通院して治療を受けている患者さんも多いので、今後も何らかの形でお役に立てればと思っています。

通常2年間のところ当院で3年間勤務していただく理由は、何でしょうか?

真庭市に根差した、なくてはならない病院だと改めて感じます。病院のスタッフも親切で相談しやすい、働きやすいアットホームな雰囲気もあり、もう1年この地域の患者さんのために頑張りたいと思います。